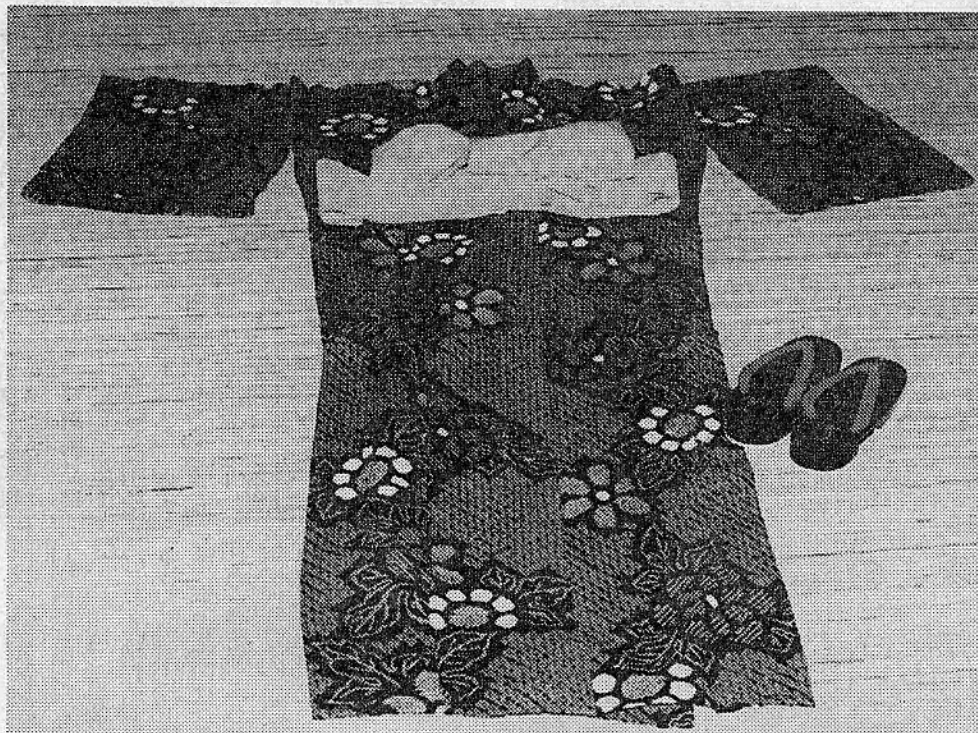


# 「有松鳴海絞」奮戦中



## ブランド作戦的中

服飾誌の  
浴衣に  
ヤングレディー反応

愛知の生んだ伝統産業「有松鳴海絞(しほり)」の歴史は一六二〇年の名古屋城築城の年までさかのぼるが、最近、伝統

### 「フラワー絞」も開発

ライトブルーの浴衣に身を包んだ女性がクラブでニッコリとほほ笑む。今年五月、二十代前半の女性をターゲットにしたファッション誌の浴衣特集に、有松鳴海絞の新製品がお目見えした。

「ファッション誌に載ったのは初めてです」。絞製造販売「近喜」専務の近藤久人さん(三六)が声をほすませる。

明治三十二年の創業。名古屋市緑区鳴海町、旧東海道沿いに立ち並ぶ古い家の一角にある。同社は今夏、主力商品の浴衣に初めて自社ブランドを付けて売り出した。発案した近藤さんは

の枠にとらわれない新しい動きが目立ち始めている。オリジナルブランドの開発や中国企業との合併会社の設立による積極的な企業展開……。「伝統の「財産」に甘えてばかりはいられない。若い経営者たちの取り組みに、「有松鳴海絞」の将来を見た。(正本 恭子)



DCブランドとの提携で最新モードになった絞

「若い女性の間では浴衣ブームが続いているのに、絞浴衣の存在はほとんど知られていない」という反省から、自社ブランドを掲げてファッション誌に売り込んだ。

読みはズバリと当たり、雑誌の発売直後から問い合わせの電話が相次いだ。その数は百本以上。関東地区の若い女性を中心だった。近藤さんは「うちの浴衣は中部地方を中心とした呉服店で扱っているケースが多い。関東の若い女性に買ってもらうため、販路を拡大することが今後の課題」と苦笑する。

名鉄有松駅の近くの絞染色業「久野染工場」。四代目久野剛資さん(三九)は絞

を「表面加工の二技法」ととらえる。平成二年にDCブランドと提携、独自に花をイメージした「フラワー絞」も生み出した。当時、染め上げた生地は約八千疋。ブランドについて約二千疋が平均の世界では異例の量産だった。「一種の賭(か)けだったが、絞独特のふわふわとした肌触りが若い人に受け入れられた」と久野さんは振り返る。今では提携しているブランドは十社を超える。

